

日本建築学会北海道支部 2009 年度 通常総会

日時 2009 年 5 月 22 日 (金)
会場 北海道建設会館

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2009 年度総会議案

2008 年度事業報告

2008 年度は学会としても大きな転換期を迎えていた。現在、本部では支部との連結会計の実施に伴い、公益法人制度の見直しも行っている。新しい法人制度が確立した折には、支部規定など
の見直しも予定されている。

中長期的な支部活動を以下の 3 項目にまとめて示す。

支部活動の強化（会員数の増強、財政の改善と強化）

支部体制の見直し（各種委員会、地方組織の立て直し）

支部活動の活性化（支部発表会、各賞、建築教育）

最近の経済不況に伴う個人会員、法人会員の減少を食い止める方策を検討する必要がある。支部体制の見直しは各専門委員会を中心に活発な調査研究が進められているが、その成果は支部研究発表会やホームページなどで一般公開されている。

本部では各支部を活性化させるために「特色ある支部活動企画」の調査研究テーマの募集を行った。2008 年度は北海道支部が採用され、1 年後の研究成果が期待されている。

2008 年度は北海道支部創立 60 周年に当たったため、会長の記念講演会、学会文化賞受賞者の記念シンポジウム及び建築文化週間などの記念行事が広く行われた。更に、次年度に向けて支部主催の「アーキニアリング・デザイン展巡回展」の計画も進行中であり、広く一般市民へ建築の啓蒙に役立つ企画を提供する予定である。

1. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2008 年 5 月 16 日

会場 北海道建設会館

出席正会員 56 名（委任状 16 通）

当支部地域在住正会員 858 名の 30 分の 1、28 名以上の出席により成立

2007 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2008 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

常議員会

5 回開催

常任幹事会

5 回開催

選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2.1 学術委員会（主査：角 幸博君 委員数 13名 委員会開催数4回）

本委員会は、本部学術推進委員会および学術推進委員会拡大幹事会の情報を各専門委員会および研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究、建築文化週間事業の選考、特色ある支部活動企画の申請および北海道支部技術賞の選考を主な業務としている。

・ 特色ある支部活動企画 2 件を本部に申請し、「北海道における建築歴史学の研究史」（水野信

太郎主査)が採択された。

- ・ 特定課題研究 2 件の申請があり、「住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握」(羽山広文主査)(本部助成)と「冬季の津波避難対策に関する研究」(南慎一主査)を採択した。
- ・ 建築文化週間:「みんなで始める地震防災対策」(都市防災専門委員会)1件を採択した。
- ・ 支部技術賞:1件の応募があったが、審査の結果、本年度は該当無しとした。

2.2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会 (主査:桂 修君 委員数 22 名 委員会開催数 6 回)

2008 年度は、専門委員会を 2 ヶ月に 1 回程度の割合で、計 6 回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会など各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について事前に担当者を決め報告をしていた。最近の研究動向について意見の交換を行った。

2008 年 10 月 21 日(火)に「北洋大通りセンター新築工事」の現場見学会を構造専門委員会と共催で行った。

構造専門委員会 (主査:桜井 修次君 委員数 21 名 + オブザーバ - 1 名 委員会開催数 2 回)

定期的に委員会を開催して構造関連の情報交換を行い、下記の活動を行った。特に、委員会活動をより活発化するため日本建築構造技術者協会(JSCA)北海道支部と協力して講演会を行った。

1) 委員会開催

委員会を 2 回行った(6 月 3 日, 12 月 5 日)。また、必要に応じて通信会議を数回行った。

2) 見学会

- ・ 2008 年 8 月 4 日 「札幌開発総合庁舎の免震改修」現場見学会 参加者 20 名
構造専門委員会・JSCA 共催
- ・ 2008 年 10 月 21 日 「北洋大通りセンター新築工事」現場見学会 参加者 30 名
構造専門委員会・材料施工専門委員会共催

3) 講演会

2008 年 10 月 2 日

「2007 年施行の構造計算関連規定の概要と限界耐力計算の地盤増幅の考え方」

(独)建築研究所 構造研究グループ長 飯場 正紀氏

構造専門委員会・JSCA 共催 参加者 70 名

4) 勉強会

2008 年 12 月 5 日 委員会終了後、室蘭工業大学名誉教授・藤間 聡氏を招き勉強会を行った。

演題:「洪水から安全に非難するために」

環境工学専門委員会 (主査:羽山 広文君 委員数 28 名 委員会開催数 4 回)

本委員会は以下の活動を実施した。

- 1) 第 3 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs08 を開催した。参加者は 72 名、36 題の発表が行われた。
- 2) 高齢化社会に対応する生活環境整備の課題検討及び取り組みを実施するに当たり、特定課題研究「住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握」を申請した。また、札幌市立大看護学部の協力のもと、夕張希望の杜の老健施設で実測調査を開始した。
- 3) (社)空気調和・衛生工学会主催の地区講演会「住まいの環境デザイン・環境エンジニアリングの可能性」(参加者 75 名)および第 37 回サイエンスカフェ札幌「もっと断熱、冬のために夏のために」(参加者 40 名)の後援を行った。

建築計画専門委員会 (主査:門谷 眞一郎君 委員数 16 名 委員会開催数 3 回)

「超高齢化社会の積雪寒冷地における居住環境整備の課題」について若干の議論を重ねた。分野の枠を越えた横断的な検討を進めていくべき方針を得ている。これを含む課題に関する研究情報を集約のために、2008 年 5 月中の作業によって、Web アプリケーション(LMS Moodle を CMS

用途にしたもの)をダイナミック DNS サービス下のサーバに立てた。しかしながら、情報コンテンツの集約はこれからの課題として残っている。

支部建築計画専門委員会用 URL: <http://harchi-planning.plala.jp/~aij-hokkaido/moodle/>

なお、関連で、本部計画委員会にも類似の提案を年度を掛けてしてきたところである。

本部建築計画委員会用 URL: <http://harchi-planning.plala.jp/~aij-hq/moodle/>

都市計画専門委員会 (主査:小林 英嗣君 委員数 13名 委員会開催数 3回)

項目	月日	場所	概要	経費等
第1回委員会	2008 6.18	北海道大学構内 ファカルティハウス 「エンレイソウ」 第二会議室	委員顔合わせ・自己紹介 委員会の役割・位置づけ確認 活動内容案・進め方検討 小樽シンポ協力案内 参加 委員9名	・委員交通費 (銀行振込・手数料) (室蘭-札幌Sきっぷ往復)
第2回委員会	2008 8.18	北大学術交流会館 第六会議室	学生や若手社会人が都市計画・まちづくりの現場に触れられる場づくりとその在り方について 参加 委員8名、学生1名	なし
プロと話そう 2008	2008 10.3	越山ビル会議室 ↓ 駅前通地下通路 ↓ 創成川通アガ' -パス ↓ OYOYOまちアートセ ンタ	学生・若手社会人を対象に、札幌都心で進むまちの更新現場見学と実務経験者の話を通して、都市計画・まちづくりの魅力や重要性を伝える 参加 委員4名、学生25名、社会人4名	・レク保険代
小樽シンポジウム	2008 11.7	小樽市民センター マリンホール	まちづくりの先進事例として語られる小樽において、峯山富美氏、堀川三郎氏らの講演ならびに学術研究者・行政職員を織り交ぜたPDを通じて、これからのまちづくりを展望する 参加 委員5名、一般約300名	なし
第3回委員会	2009 3.16	KKR札幌ホテル 会議室 -アカシア -	1. 低炭素型都市の動向 2. 札幌都心まちづくり戦略会議中間報告と北3条広場計画 上記2項目について、勉強会形式で最新情報を共有し理解を深める 参加 委員6名、学生17名	・委員交通費 (手渡し) (室蘭-札幌Sきっぷ往復) ・会場費 ・資料印刷費

歴史意匠専門委員会 (主査:水野 信太郎君 委員数 16名 委員会開催数 4回)

道内各地の歴史的建造物の現状を把握し、保存・活用に関する意見を委員間で共有し、必要に応じて当委員会として社会に発言する活動を行った。一方で、助成研究活動としては「北海道における近代和風建築の特徴」と題した共同研究の成果を、本学会北海道支部研究報告集No.81(2008年6月)に掲載し、同報告会で発表した。

また一般市民への建築学的な啓発活動として、建築文化週間中の10月4日に「歴史的建造物から夕張の歴史と未来を考える」と題する事業を実施した。その結果、午前中の講演会には73名、午後の見学会には61名の参加者を得た。夕張の保存問題は緊急性を有するもので、高い関心を集めた。

北方系住宅専門委員会（主査：鈴木 大隆君 委員数19名 委員会開催数1回）

本委員会では北海道における「住まい」とそこでの「暮らし」のテーマを改めて考えるための活動として、3月7日に「これからの住まいと暮らしを考える『住まい・暮らし見学リレー』」を、照井康穂氏設計の住宅「雁木のある家」「森を楽しむ家」の見学会で実施した（9名参加）。気持ちよくすむために「開く」をテーマとして、窓のありよう、建物の性能、空間構成、設備機器の対応などについて議論を行った。

都市防災専門委員会（主査：南 慎一君 委員数18名 委員会開催数2回、通信委員会8回）

調査研究については、津波防災対策、地震防災対策に関する研究課題の検討を行った。地域との連携活動については、建築文化週間事業「地震防災体験学習 in なかしべつ」(中標津町、10/4)の企画運営を行った。また、北海道建設部建築指導課主催の平成20年度地震防災シンポジウム「みんなで始める地震対策」(釧路市、10/3)の企画開催に協力した。

委員会活動については、室蘭工大藤間聡名誉教授による講演会「洪水から安全に避難するために」を構造専門委員会と合同開催した(北大、12/5)。自然災害調査については、建築災害調査方法研究委員会(2007-8)の検討結果を踏まえて、北海道支部災害時連絡体制整備案を作成した。

2.3 特定課題研究委員会の実施

該当なし

2.4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2007年度より)

寒冷地工事仕様調査研究委員会(主査:長谷川 拓哉君 委員数21名 委員会開催数6回)

本委員会は、適正な寒冷地工事仕様の検討を行い、日本建築学会標準仕様書(JASS)に反映を行うことを目的に活動を行った。平成20年度は、以下の活動を行った。

- 1) 実務者へのアンケート調査：設計者を対象にアンケート調査を行った。
- 2) 現行JASSの寒冷地対応状況に対する調査：現行JASSの本文及び解説について、寒冷地に対する注意喚起、寒冷地対応の工事仕様の有無、寒冷地に関する解説などの対応状況の調査を行った。
- 3) JASSの寒冷地工事仕様に関する改善案の提案：1)、2)をふまえ、現行JASSの本文及び解説について、寒冷地対応の工事仕様に関する記述の改善案を検討した。成果は下記を平成20年度支部研究発表会に発表した。また、平成21年度同発表会にも発表する予定である。

寒冷地工事仕様調査研究委員会：実務者を対象とした寒冷地工事仕様に関するアンケート調査結果、日本建築学会北海道支部研究報告集、2008.7

3. 委託調査研究の受託

該当なし

4. 支部研究発表会の実施（主査：羽山 広文君 実行委員会委員17名 委員会開催数5回）

研究報告集 No.81(収録数:109 編)および CD-ROM 版を作成し、第 81 回支部研究発表会を以下のように開催した。

日時：2008 年 6 月 28 日（土）

場所：北海道工業大学（札幌市）

参加者数：研究発表会（150 名） 特別企画（250 名）

特別企画：斎藤公男 日本建築学会会長特別講演

空間と構造 - 私にとっての構造デザイン

5. 表彰

5.1 北海道建築賞

（1）北海道建築賞委員会（主査：大萱 昭芳君 委員 7 名 委員会開催数 3 回）

本委員会は 1975 年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞に相応しい作品を選考し、2008 年度で 33 回目となった。選考の基準としては、作品の有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」の視点を掲げている。

4 月 15 日（火）の応募開始から 10 月 31 日（金）の授賞式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第 33 回北海道建築賞を実施することができた。

4 月 15 日（火）：応募開始

5 月 8 日（木）：第 1 回委員会 応募状況の確認および応募推薦作品の選定・スケジュールの確認

5 月 28 日（水）：第 1 回審査会 応募 16 作品の確認・書類審査で現地審査対象作品 6 作品を選考

7 月 10 日（木）：第 1 回現地審査 余別町・黒松内町の 2 作品

7 月 15 日（水）：第 2 回現地審査 札幌市の 1 作品

8 月 28 日（木）：第 3 回現地審査 美瑛町・芦別町・砂川町の 3 作品

9 月 9 日（水）：第 2 回審査会 最終選考・北海道建築賞「黒松内中学校エコ改修」加藤誠君・同奨励賞該当なし

10 月 31 日（金）：北海道大学遠友学舎にて授賞式および受賞記念講演会・受賞者を囲んで懇親会
なお、3 名の委員より次年度以降の辞退の申し出があったため、12 月 11 日（木）に委員会を開催して辞意を確認し、2009 年度の委員会構成について討議した。

審査員：

主査：大萱 昭芳君

委員：内田 光彦君 大矢 二郎君 小篠 隆生君 鈴木 敏司君 前川 公美夫君

山田 深君

（2）受賞者

北海道建築賞

加藤 誠君（株式会社アトリエブク）

作品名 「黒松内中学校エコ改修」の設計

（3）審査経緯

本委員会は、応募期間中の 2008 年 5 月 8 日札幌市内で委員会を開催し応募状況を確認したうえで、支部主催の「建築作品発表会」他から委員推薦候補作品を選び、各設計者に正式な応募手続きを依頼した。

本年度の第一回審査会は、全委員参加のもと 5 月 28 日に札幌市内で開催され、全委員同意の下に以下の審査対象 16 作品を確定した。

応募作品及び応募設計者（順不同）：

中富良野保育園（西島正樹君／プライム一級建築士事務所）
サッポロアパートメント（納谷 学君他／納谷建築設計事務所）
積丹町立余別小学校 - 小集落のり・デザイン第 期 - （井端明男君／(株)アトリエアク）
リストラテノトレノ（福島慶介君他／(株)福島工務店）
読売新聞大曲工場（米田浩二君他／鹿島建設(株)建築設計本部）
(株)モーニング新社屋（川口英俊君／(株)アーキテクト・キューブ）
系賀整形外科クリニック新築工事（川口英俊君／(株) アーキテクト・キューブ）
龍香洞（谷口大造君他／スタジオトポス）
五稜郭タワー（佐波俊二君他／清水建設(株)）
札幌市山口斎場（平井裕彦君他／(株)山下設計）
黒松内中学校エコ改修（加藤 誠君／(株)アトリエブク）
六書堂新社屋「ときの杜～forest in time」（畠中秀幸君／スタジオ・シンフォニカ(有)）
JAびえいアグリパーク「美瑛選果」（鈴木 理君他／(株)鈴木 理アトリエ）
サッポロビール博物館・サッポロビール園（久保勝彦君他／大成建設(株)）
小さな老人ホーム「かざぐるま」（小倉寛征君／エスエーデザインオフィス）
砂川市地域交流センター ゆう 及び 砂川駅自由通路（弓良芳雄君他／(株)北海道日建設計）

引き続き第一次書類審査に移り、現地審査対象作品が選考された。

最初に、作品選考審査の方法として、多数決ではなく議論を通じて全委員の同意を得ること、その評価の視点は、コンセプトと設計プログラムおよび実体的表現の「先進性」、時間・空間軸における自然を含めた人間社会に対する「規範性」、それらを統合して美の創造を目指す「洗練度」とすることを再確認した。

各委員の個別評価と活発な議論の末に、現地審査該当作品として、積丹町立余別小学校 - 小集落のり・デザイン第 期 -、黒松内中学校エコ改修、JAびえいアグリパーク「美瑛選果」、サッポロビール博物館・サッポロビール園、小さな老人ホーム「かざぐるま」、砂川市地域交流センター ゆう 及び 砂川駅自由通路 の6作品（順不同）が選定された。

現地審査は委員7名全員の参加を原則として3回に分けて実施された。7月10日に第1回、積丹町立余別小学校と黒松内中学校エコ改修。7月15日に第2回、サッポロビール博物館・サッポロビール園。8月28日に第3回、JAびえいアグリパーク「美瑛選果」および小さな老人ホーム「かざぐるま」、砂川市地域交流センターゆう 及び砂川駅自由通路。いずれも天候に恵まれ、周辺環境から建築空間の内外まで詳細に観察し、設計者やクライアントとの意見交換を含めて有意義な現地審査となった。

第二回審査会は9月9日、全委員出席のもと札幌市内で開催され、現地審査作品を対象に最終選考が行われた。審査に先立ち次のことを確認した。計画および設計に関与した委員は、当該作品に対する見解表明を避け個別討議の際には座を外す。選考審査は、各委員が作品に関する見解を述べたのち、作品ごとの自由討議に移り多角的視点から活発で真剣な議論がおこなわれた。これまで述べた一連の選考審査を経て、個々の作品の評価と意義が整理され、本委員会の総意として北海道建築賞および同奨励賞について以下の決定をした。

- ・北海道建築賞に「黒松内中学校エコ改修」加藤 誠君／(株)アトリエブク
- ・北海道建築奨励賞は該当作品なし

現地審査6作品のうち5作品は残念な結果となったが、いずれも佳作劣作であり、評価の要点を以下に述べ、今後の活躍に期待したい。

- ・積丹町立余別小学校 - 小集落のり・デザイン第 期 - ：漁業で栄えた歴史ある小集落の核として小学校と町民センターを統合し、旧校地を多目的なコミュニティ空間に再構築したプログラムと設計手法はその先進性と規範性の観点から高い評価を得た。特に小学校内部は町民の利便性も考慮した綿密な空間構成が、小規模の利点を生かした上質な大きな家的空間を創出した。一方、建築として一体である旧体育館を再利用した町民センターが、町の別設計によるためかプログラム意図を十分表現できず残念な結果となった。
- ・JAびえいアグリパーク「美瑛選果」：国道沿いにフランスレストランと農産物直販コーナーを併設する企画を、外部空間によって分節化した単純な平面計画、均質化された大きなガラス開

口と壁面の構成によってモダンで端正な佇まいの建築に結実させたデザイン性は高く評価された。一方、二つの主用途に挟まれた中央ゾーンの空虚感、レストランアプローチの不自然さ、共通パーキングエリアに緩衝空間なしに併置された前面外部テラスのあり方などに問題が指摘された。

- ・ サッポロビール博物館・サッポロビール園：明治 23 年築の重厚な煉瓦造建築を活用した博物館正面に新築された低層のガーデングリルは、周囲の緑地に映える現代建築として博物館と好対照をなし、互いに響きあって札幌らしい園内景観を創出している。しかし、博物館裏の増築部分は、歴史的景観保持を目的に採用された一部黒塗り外装タイルや非対称勾配破風などの擬似景観復元手法が、文化財としての博物館建築の品格を欠く結果となっていることが指摘された。
- ・ 小さな老人ホーム「かざぐるま」：特殊養護施設の小規模サテライトとして既存住宅地の一角に新設された。利用者に対するバリアフリーを確立するために近隣に対して細やかに配慮された配置計画と外観デザインには高い規範性が認められ、住宅設計の手法で丁寧に構成された内部計画には先進性が感じられた。一方、全体的に建築表現としての新規性と洗練さが未成熟とされた。
- ・ 砂川市地域交流センターゆう 及び砂川駅自由通路：砂川駅東部開発の中核施設として計画された交流センターは、70m超の吹抜け大空間「交流スペース」と本格的劇場機能を持った「多目的ホール」を核とした大規模な公共建築である。前面広場に対し、交流スペースは1階部分が全面ガラス開放だが上部は長大な連続壁体となって重苦しく、施設全体としても外に閉じた硬い感じの外観となっている。多様な設計条件への解として計画された交流スペースだが、ヒューマンスケールを超えた構造空間はイベント時には有効に機能しても、日常性の中ではスケールアウトの危険性をはらんでいる。自由通路との視覚的空間的連続性を含めて公共建築としての豊かな日常性への疑問が指摘された。

(文責 大萱 昭芳)

(4) 審査講評

北海道建築賞 「黒松内中学校エコ改修」

少子化の進行に伴う学齢人口の減少は小中学校の教育現場と地域に深刻な影響を及ぼしている。かつての施設規模を維持できず、全国的に校舎と学区の統廃合が進められているが、小中学校はさまざまな年中行事を通して地域コミュニティを支える社会基盤システムの中核だった。一方、地球規模では熱環境変動と化石燃料ピークアウトを視野に低炭素社会の構築が急務となってきた。

このような社会状況を背景に、「黒松内中学校エコ改修」プロジェクトが始まり、1年間の2つのプログラム、地域住民・生徒・教職員への「環境教育検討会」と建築技術者への「エコ改修検討会」への参加が設計プロポーザルの必要条件として示された。この実験的な先行プログラムは度重なるワークショップを通じて、エコ改修プロジェクトの目的と意義を関係者全員の共通認識に高め、成功に向けての強い原動力となった。

設計者はこのプロセスの中で、「ひかりのみち」による「大きな家」のコンセプトを育み、地方の学校建築がかかえる消費エネルギーの削減・耐震化・老朽化・人口減による機能再編という普遍的テーマに対し、黒松内の自然風土と既存校舎の特殊性の解析によって建築的特殊解を導いた。このことは、20世紀文明の脆弱性に対する解は文化的アプローチに内在することを暗示している。

「ひかりのみち」は3スパン中央部のスラブを撤去した東西に連続する吹抜け空間で、北に傾斜したガラス屋根からの柔らかな天空光で満たされている。「大きな家」を象徴する乳白色に輝くガラス屋根は、細身の鋼管で構成された三角錐形の3Dトラス梁で均質に支持され、リズムカルで軽やかな視覚効果を生んでいる。1階は特殊教室群と管理部門の前庭として授業中や放課後、生徒と教職員、時には町民によって多様な光景が展開され、2階は一般教室としての静けさを保ちながら、両面採光による均一な光環境がガラス屋根からの天空光によって実現している。

風土特性を生かした自然採光と自然通風および外断熱の徹底による暖房負荷の低減によって消費エネルギーの大幅な削減を達成。「ひかりのみち」で撤去された躯体荷重減による耐震性の向上。外断熱の躯体温度保持による耐久性の向上と修繕費の低減。生徒数減少による機能再編によって創出した豊かな学校生活空間。部分的に壁面テクスチャとして残した解体時の痕跡は記憶を呼び戻す歴史の残像。一変した建築環境は室温や照度、風量などに関心を呼びおこし、生徒による数

値測定が日常化した姿は理想的な科学教育。

「黒松内中学校エコ改修」は改修でしか得られない建築空間を具現化した秀作である。その手法が示す普遍性は極めて高い先進性と規範性を有し、建築における新分野を開拓した。新築以上に労の多い改修において、明確なコンセプトのもと細部にまで挑戦し続けた建築家魂に敬意を表するとともに、建築としての洗練度の高さに賛辞を送る。

(文責 大萱 昭芳)

5.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会(主査:渡邊 広明君 委員数6名 委員会開催数1回)

2008年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、審査方針の確認とともに各委員選定の候補作品について推薦を行い、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の分野別に候補作品各々について合同において再審査し、合議の上、各賞を選出した。

本年度は、特に各部において力作が多く、「大学」の部で金賞2点、「工業高校」の部で銀賞2点、銅賞2点の選定となった。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員:

主査:渡邊 広明君

委員:小倉 寛征君 上遠野 克君 小西 仁彦君 斉藤 徹君 菅原 秀見君
中山 眞琴君

(2) 受賞者

大学の部 (応募作品数 12点)

- ・金賞 石黒 卓君:北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 - Re:edit... Characteristic Puzzle
- ・金賞 永谷早都実君:北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 - 風砂
- ・銀賞 出村由貴子君:北海学園大学工学部建築学科
作品名 - 「刻印された建築空間-神々が威る岬が今伝えること-」
- ・銅賞 浮須 隆君:室蘭工業大学建設システム工学科
作品名 - +hatake - 畑による生活の変容 -

短大・高専・専門学校の部 (応募作品数 7点)

- ・金賞 佐藤 杏那君:札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
作品名 - SAPPORO CAMP を考える
- ・銀賞 堀内 銀君:釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 - deforme ~ 別海市街地における酪農を用いての
「まちおこし」スタイルの提案
- ・銅賞 国京 佳史君:札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 - 活気と日常の狭間 - グラデーションの集合体 -

工業高校の部 (応募作品数 8点)

- ・金賞 片野登士晃君:北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 - 吹き抜ける空間~光・風・森・人・時間~
- ・銀賞 田口 昌実君:北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 - SORA~笑顔広がる場所~
- ・銀賞 山口 敏弥君:北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 - 北彩都~五感ミュージアム~

- ・銅賞 橋 亜莉沙君：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — 和みの郷
- ・銅賞 新沼 紀宏君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
作品名 — 「いも虫保育園」

(3) 審査講評

大学の部

金賞・石黒君

地方都市の傾斜地の住宅地で日常の生活の中で気になる場所や好きな場所の断片を10メートル角に54か所の場所を切り取り、その一か所一つか所の特徴を再構築してつなげ合わせていく。綿密な調査により抽出した各敷地や建物の関係は抽象的に読み直されて、重力を失った擁壁や消火栓などは記号化されその細部に至るまで徹底的に計画の中に織り込まれている。これらの細部があることにより風景の記憶はさらにリアルなものになる。今まで不連続であった場所と場所が連続してまちをつくり新しい風景として異化された場所ができる新鮮さが作者の力量を感じさせる作品である。

(文責：小西 彦仁)

金賞・永谷君

石狩川河口砂嘴の、開発造成の爪あとが残る埋め戻し平坦地を、地形づくりと植生で回復させようとする計画である。ハマナスなどの海浜植物に、砂は欠かせない。石狩湾から吹く風で移動する砂を受け留め堆積できるように、砂防林のような長壁を建てる。砂丘の稜線のようなジグザグ配置の壁は、遠い将来、砂で埋まり自然地形に生まれ変わる。壁の内部の回廊は、訪れる人に環境啓発と憩いの場を与える。長い時間の経過とともに植物は茂り、木組みの壁は土に帰る。

このように自然環境と建築を時間の大きなスケールで組み立てる着想に説得力がある。回廊内に侵入する砂の演出や、風で回るオブジェのデザインが計画の完成度を高めている。外観の絵画的表現も力量を評価したい。

(文責：齊藤 徹)

銀賞・出村君

瞬時にしてこの作品の魅力に己を引き込まれる。「地中美術館」を連想させるのが少々残念ではあるが力作であることは間違いない。プリミティブな自然体と建築の駆け引きのような、コラボレーションのような、ととても心地よいその空間は神々の領域のようにも見える。美しいプレゼンテーションは一層その結界を危うくさせ、単体の建築はつつい牙城な存在になりがちであるが、こんな相克しあう建築も我々建築家にとって一つの方向性を示してくれた作品である。感謝したい。

(文責：中山 眞琴)

銅賞・浮須君

都市部に建つ高層集合住宅の提案である。集合住宅といっても直方体の塊ではない。住戸の周囲に畑が配置されており、都市と建築、外部空間と居住空間のインターフェイスとして畑が位置づけられている。都市建築への問題意識、日光取得を基軸とした形態、配置計画の論理性などが明快であり評価されたが、建築への導入部の丘の設定に全体コンセプトとの整合において説明が不足しており、作品の完成度としては課題が残された。

(文責：菅原 秀見)

短大・高専・専門学校の部

金賞・佐藤君

目的・解析・提案・意匠・表現が見事に一体化した SAPPORO シェルター (寒冷地対応型応

急仮設住居)です。5つの提案の中で特に透光性と断熱性の確保を素材の選択も含めて上手に提案、仮設住居のもつ閉塞感を減少し、美しい造形に仕上げています。

フライシートである程度は確保出来ると思いますが、屋根又は壁面骨組の中にデザインされた斜材を入れ、より剛性を高めましょう。断熱性能の検証実験もこの作品の実証性を高めています。ぜひ現寸の作品で組立ての楽しさ、内部空間の確かさ、外観の美しさを体験してみたい作品です。

(文責：上遠野 克)

銀賞・堀内君

別海町が抱える地域の産業・酪農の課題を解決するため、観光をキーワードとする新しい施設づくりに対し、デフォルマシオン技法による建築造形が生み出すムーブマンを地域活性化の起爆剤にしようとする意欲的な提案である。建築の造形や新たな空間の提起が新しい地域活動や希望の出発点になるという提案は支持されるだろうし、建築の可能性を広げる大切な試みであろう。ただ、群建築としての配置は、数種のモチーフによる建築造形の陳列になった感は惜しまれる。場としての空間力の提案があっても良かった。

(文責：渡邊 広明)

銅賞・国京君

日常見かける何気ない風景から問題点を取り出し、現地調査によりその事実を確認していくという都市と建築への誠実な取り組みに好感をもった。また、数学的操作により巧みに立体グリッドの中に集合体を作り出す手法、グラデーションを表現するように密度を変えたファサードデザインなど建築の空間を形成する論理と表現に秀逸なものが感じられた。一方で住戸プランが単調に感じられる点、具体的な生活や活動のイメージ表現がやや不足していることが課題として挙げられた。高いプレゼンテーションの質などを総合的に判断して銅賞にふさわしい作品であると判断された。

(文責：小倉 寛征)

工業高校の部

金賞・片野君

キーワードが3つある。「明るいプラットホーム」、「形状は木々や山々をイメージ」、「建物自身が自然の一部」。これらを頭に入れて作品を見ると1Fの展示室が道路で分断されていたり、パースでは広場に木がなかったり、多少の問題はあるにしろ作品としては大変考えられていて力作である。公共的な建物は特に交通施設はどこの建物を見ても味気ない。スピードが要求されメタリックになりがちな感覚はわからないでもないが、だからこそこのような駅が必要なのではないだろうか。その信念を評価し金とした。

(文責：中山 眞琴)

銀賞・田口君

軸線をずらした普通教室棟と特別教室棟が「語らいの場」を挟み込むように配置された学校である。ここで設計者は普通教室と特別教室の間の移動を否定的な要素として捉えず、階段やガラスを利用した「語らいの場」を積極的に設けることで交流が生まれる空間に置き換えている点が評価された。これはプレゼンテーション中に示されているように既存の学校の配置計画や教室計画の分析を行なうことで発見された解決策だと感じられた。また、図面表現もしっかりとした技術を感じさせるものであることから銀賞がふさわしいと判断された。

(文責：小倉 寛征)

銀賞・山口君

想像力を刺激する美術館の提案である。忙しい街への危機感からリラックスができ楽しむことができる空間の提案として「宇宙」「香り」「無限」「光の影」「鏡」の5つの空間が計画されて

いる。音のない空間、小さな窓から光が差し込む空間、光にあふれる空間など独創的な空間が五感に働きかける。空間と人、自然と人の一体感の追及は明快であり、ビルディングタイプにとらわれない空間性からの自由な発想が評価された。

(文責：菅原 秀見)

銅賞・橘君

作品は、少子高齢化の時代状況を読みとり、そのような時代を象徴する高齢者施設設計を課題として提起された。この施設には、クリニックも機能訓練の場も、図書館もミニシアターも、と盛りだくさんだ。暖かさを感じる自然木や清潔感をイメージする白を基調とする建築として、ひとつのまとまった建築に仕上げたことは評価される。ただ、ここで暮らすお年寄りが幸せを感じるかどうかについては、もっと考えることも必要だろう。もっと人を見つめることも必要だろう。そうすると、建築はもっと魅力的になるでしょう。

(文責：渡邊 広明)

銅賞・新沼君

いも虫をモチーフにしながら、中庭を取囲む様に保育室・廊下が配置された作品です。円型の保育室も楽しそうです。平面図、立面図もしっかり書かれていますが、一番素晴らしいのは模型です。図面では表わせないユニークな形態がとても良く表現されています。2階の大きなプレイルームの屋根がもう少し工夫され、上部からの光が溢れる様になると、さらに楽しい作品になったでしょう。

(文責：上遠野 克)

5.3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

2008年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

増田 祥子君・永谷早都実君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
石動由佳理君・奥田 沙希君：北海学園大学工学部建築学科
関口 晴代君・篠原 沙樹君：北海道工業大学工学部建築学科
澤田 圭祐君・金谷 修平君：室蘭工業大学工学部建設システム工学科
佐藤 理央君・小山 幸希君：東海大学芸術工学部建築・環境デザイン学科
小坂 良子君・千田 健二君：道都大学美術学部建築学科
廣中 諭君・清野 岳志君：釧路工業高等専門学校建築学科
鈴木 宏彬君：札幌市立高等専門学校専攻科インダストリアルデザイン専攻
天野 奈緒君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
西側 翼君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
天野 沙耶君：北海道職業能力開発大学校建築科
吉川 幸子君：札幌国際大学短期大学部総合生活科
幅口 恵介君：北海道立正学園旭川実業高等学校建築科
谷 昌哉君：北海道札幌工業高等学校建築科
五十嵐彩乃君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
葛西 志保君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
森 和彦君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
日向 諒君：北海道函館工業高等学校建築科
佐藤裕貴子君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
亀田 浩平君：北海道旭川工業高等学校建築科
青野 渉君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
中田 皓大君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
小林 仁君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
田守 孝行君：北海道帯広工業高等学校建築科
渡部 栞里君：北海道釧路工業高等学校建築科
宗万 恵一君：北海道名寄光凌高等学校建築システム科

壽崎 勇騎君：北海道美唄工業高等学校建築科
宮道 勇哉君：北海道室蘭工業高等学校建築科
小林 司君：北海道留萌千望高等学校建築科
阿久津 翼君：北海道北見工業高等学校建設科

5.4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2008年度は、該当する法人・賛助会員等はなかったが、今後も引き続き表彰する予定である。

5.5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会(主査：角 幸博君 委員数 10 名 委員会開催数 1 回)

選考委員：支部長、学術委員会委員長、各専門委員会主査の計 10 名

開催日時：1 月 23 日(金) 17:00~18:00

場 所：日本建築学会北海道支部会議室

第 2 回北海道支部技術賞選考委員会を開催した。応募数は 1 件。

選考委員会で検討の結果、専門部会(支部長、学術委員会委員長、委嘱部員 2 名)で詳細に検討することとし、2 月 4 日に部会を開催し、応募者に追加説明を求めた。追加資料が提出された後、2 月 26 日の部会で再度検討を行い、選考委員会の議を経て、表彰対象無しとの結果となった。

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会(主査：佐藤 孝君 委員数 3 名 実行委員 10 名 委員会開催数 5 回(実行委員会 3 回を含む))

ここ数年間で定着してきた 12 月初旬発表会開催というスケジュールを継承し、北海道建築作品に対するフラットな発表と議論の場を提供することを念頭において、本年のスケジュールと内容を決定した。また、効果的な経費削減に取り組み、応募案内等の支部 HP の活用や、プログラム・ポスターの経費見直し、作品集の原価圧縮などに取り組み、収支の好転を目指した。さらに、発表形式についても作品紹介、質問募集、発表という昨年の形式を踏襲することを委員会で決定した。

また、建築賞委員会、事業主査連絡会、さらには、常議員会との協議により、前回から作品発表会にエントリーされた作品は、同時に北海道建築賞の推薦にむけての参考とみなされている。

実行委員会は、7 名の実行委員を加え 10 名で組織した。発表方式の変更の確認、作品の受付、プログラム編成、プレフォーラムという流れに沿って 3 回開催した。すべての発表は PowerPoint 等による PC を使ったものとし、今回は 35 作品の作品が集まり、盛況な開催となった。

12 月 12 日に第 28 回建築作品発表会を北海道立近代美術館講堂で開催、作品集 VOL.28 を発刊した。発表会での議論の記録、発表作品の分析等を含めた活動記録と評論を北海道建築士事務所協会誌「ひろば」12 月号に米田浩志君が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

第 28 回建築作品発表会の報告

期日 2008 年 12 月 12 日

会場 北海道立近代美術館講堂

発表作品数 35 題

大変好評であった発表作品に対する発表者と来場者との議論の活性化を目指した事前質問募集、

全発表者に対する均等な発表時間の割当という昨年より実施したプログラムを今年も踏襲して発表会を行った。今回集った 35 作品もデビューする若手の作品から、従来より北海道建築界の先導役となってきた重鎮の方の作品まで多彩にそろい、そういう意味でも多様な議論が展開される発表会となった。これは、本発表会が北海道における建築作品の発表の場として広く定着して来ていることを示すものであると理解できる。28 回という長い歴史を持つ発表会を今後も持続しつつ、絶えず時代に即応したニーズを汲み取りながら、学会における建築作品の発表の場を築いていきたい。

参加者約 400 名。「北海道建築作品発表会作品集 2008 VOL.28」を発刊。

7. 特別委員会

7.1 事業主査連絡会（事業系 5 委員会の主査、事業系担当常議員、連絡会開催数 1 回）

本連絡会では、事業系 5 委員会の事業進捗状況と連携、その際の問題点等の把握、常議員会へ改善提案等の活動を行うこととしている。過去議題にあがった事項の対応として、本年度についても建築文化週間中に第 33 回の北海道建築賞授賞式と記念講演会が実施された。また、卒業設計審査委員会より出されていた HP への入選作品の掲載については、HP 管理委員会との連携し最新年度までが掲載されている。

7.2 総務委員会（委員長：菊地 優君 委員数 4 名 委員会開催数 1 回）

北海道支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理について主に検討を行い、四半期に一度の頻度で常議員会にて報告を行った。また、2008 年度は新たに導入された新公益法人会計基準に対応した次年度予算案策定について検討した。日本建築家協会北海道支部との合同委員会では、両団体の活動に関する情報交換を行うとともに、合同企画についての検討を行った。

7.3 ホームページ管理委員会（主査：谷口 尚弘君 委員数 5 名）

当委員会は、2001 年 4 月に開設された当支部ホームページの管理を活動の目的とし、委員会の定例開催は特に設定していないが、掲載内容等について適宜通信により協議することとしている。今年度は、3 名が任期により委員を改選した。

2007 年 1 月より、新しいホームページ管理委員会規定に基づき活動しており、講演会の開催案内、北海道支部研究発表会や北海道建築作品発表会の募集案内等の掲載を行い、北海道支部の広報として活動した。また、ここ 1～2 年間に於いて更新されていない委員会にホームページの更新を依頼した。しかし、それぞれの責任において実施することとしている各種委員会のページ更新が未だ十分実施されていない委員会があり、各委員会は会員への情報提供としてホームページを積極的に活用するよう、あらためて要望する。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8.1 講習会

（1）本部主催講習会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
2008 年度支部共通事業「JASS5 鉄筋コンクリート工事改定」講習会	2009.3.6	ホテルノースシティ	名和豊春君 他 3 名	111 名

(2) 支部委員会主催講習会(セミナー)

該当なし

8.2 講演会

(1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 支部主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
建築文化週間「第33回北海道建築賞授賞式・記念講演会」	2008.10.31	北海道大学遠友学舎	加藤 誠君	約50名
日本建築学会北海道支部創立60周年記念シンポジウム 「小樽運河と石造倉庫群の保存運動から何を受け継ぐのか ～地域に生き、地域を守る～まちづくり運動の先駆者峯山富美氏が伝えること」	2008.11.7	小樽市民センターマリンホール	峯山富美君 他6名	約270名
「北海道のポテンシャルを活かす建築環境計画と住まい術」	2008.12.10	北海道立苫小牧工業高等学校	斉藤雅也君	120名
第28回北海道建築作品発表会	2008.12.12	北海道立近代美術館大講堂	作品数35点	約400名
「建築を学ぶということ - 構造の基本から・まちづくりまで - 」	2009.3.9	北海道小樽工業高等学校	水野信太郎君	78名

(3) 支部委員会主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
建築文化週間「みんなで始める地震防災対策」 (都市防災専門委員会)	2008.10.4	中標津町総合文化会館	麻里哲広君 他4名	39名
第3回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs08 (環境工学専門委員会)	2009.3.13	北海道工業大学	発表題数 36題	72名

8.3 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2008.5.14 ～5.18	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学	167名
5.23～26		東海大学	374名
6.7～6.8		北海道大学	約100名

11.12～14		釧路工業高等専門学校	約 150 名
2008.7.14 ～11.21	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 13 校	

8.4 見学会

開催日	見学場所	解説者	参加者数	主催
2008.10.3	「プロと話そう 現場見学会と実務プロフェッショナルとのひととき」	星 卓志君 他 4 名	37 名	都市計画専門委員会
2008.10.4	建築文化週間 「歴史的建造物から夕張の歴史と未来を考える」	角 幸博君 他 1 名	61 名	歴史意匠専門委員会
2009.3.7	これからの住まいと暮らしを考える「住まい・暮らし見学リレー」 小倉寛征氏から照井康穂氏へ	照井康穂君	9 名	北方系住宅専門委員会

9. 本部関連事業・その他

9.1 2008 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会 (主査：川人 洋志君 委員数 5 名 委員会開催数 1 回)

委員会活動として設計競技審査会を 2008 年 7 月 14 日、午後 4 時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「記憶の器」であり、13 案の応募があった。5 名の委員全員による活発な討議を経て「バス停での小さな出来事」-内山 崇他案、「斜楼」-寺村 雄機案、「時生橋」-小栗 真実他案、無題-名内 雄亮他案の 4 案を支部入選案として決定した。

支部審査員：

主 査： 川人 洋志君

委 員： 赤坂 真一郎君 小西 彦仁君 那須 聖君 山之内 裕一君

(2) 審査講評

設計競技審査会を 2008 年 7 月 14 日、午後 4 時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「記憶の器」であり、13 案の応募があった。5 名の委員全員による活発な討議を経て「バス停での小さな出来事」-内山 崇他案、「斜楼」-寺村 雄機案、「時生橋」-小栗 真実他案、無題-名内 雄亮他案の 4 案を支部入選案として決定した。入選案 4 案のうち、2 案は、道外からの応募であった。入選案のうち、「時生橋」-小栗 真実他案が、全国佳作入選案に選出された。以下にそれぞれの案の審査評を記す。

「バス停での小さな出来事」

内山 崇、広田 彰紀、森 喜彦 - 以上、東京理科大学大学院

「バス停での小さな出来事」と名付けられた本案は、記憶の器としての生態系のニッチと考えられる。課題に対して既存の建築が備える「記憶」にたよる他の作品が見られた中で、本案が提示するのは記憶を生んでいく装置である。廃止の可能性のあるバス停の状況と地域の生態系を理解し、物理的な環境を様々な生態のニッチとして計画している。バス停としての場面の後には、動物が棲み、人々が立ち止まる場面が現れる。

複数の場所に対して単一の形式を用いることが場所性を考えた場合に当初、疑問が残ったが、

地域に同じ形式が点在する空間的な記憶と、同じ形式が周辺環境とセットになり年月が経過した後には異なった空間として現象するという時間的な記憶、両者が共存しうる「器」がつけられている。

(文責：那須 聖)

「斜楼」

寺村 雄機 - 京都大学大学院

「斜楼」と題される本作品において、作者は、北方領土を臨む日本最東端の地、納沙布岬に櫓を計画している。

作品を目にした時、見ゆるがままの風景と人の業が刻み続ける物語の狭間で、はっきりとした輪郭を成す直前に在る初源的な記憶が、ここに胚胎されるだろうと感じた。つづら折のスロープとスリットが穿たれ傾いた壁で構成される空間に招来される光と音が紡ぎ出す内部空間のシーケンス、その外貌の強い佇まいを独特のドローイングで描出したことが、この作品を支えている。

(文責：川人洋志)

「時生橋」(全国佳作入選案)

小栗 真実 - 北海道大学、青木 潤 - (株)日本設計 建築設計群

「時生橋」案は、川に交差点としての橋を架ける提案。交差点は生きた時間をつむぐ装置として考えられた。かつて川は運河であり物流装置そのものだった。100年後その役割は終わり都市の自然に立ち返える。しかし作者は、川はいつも人々の視線と共にあるべきだと主張する。川面をながめ流れに時間を感じ思考を深めることができるように、川は橋と同じく、街の歴史や人々の記憶を育んできた。明日の記憶は未来の時間と空間の融合と考えられ、それを生む装置としての交差点=器としての橋が想起されている。提案された橋は、ポイドが適度に空けられ水平方向に重ねたスラブと、川面に向かってゆるやかに下降する階段により構成され、積層と素材感を効果的な表現手法とし固有な記憶の創出を意図している。

(文責：山之内裕一)

無題

名内 雄亮、浮須 隆、山田 健太、奥野 理沙 - 以上、室蘭工業大学

札幌の郊外には開拓時代より田畑を風や風雪から守るための防風林がある。この作品は現在周辺が宅地化され取り残された防風林を、人が再び違うかたちで住宅地として利用するものである。計画された住宅は搭状のもので敷地の緑地面積を最大限に残し、森は記憶を残し人を受け入れる器となり、新たな生活の場として魅力ある空間と風景が提案されている秀逸な作品である。

(文責：小西彦仁)

9.2 作品選集支部選考の実施

(1) 作品選集支部選考部会活動報告(主査：米田 浩志君 委員数9名 委員会開催数2回及び 現地審査)

北海道支部への応募数は12作品だった。昨年度より1作品増えたものの、他の支部の応募総数増加のために、今年度は12作品中5作品が支部推薦枠となった。

第1回目の支部選考部会では、現地審査対象作品の書類審査を行った。今年は各委員が5票を持って投票し選考した。これは、各支部において選考するプロセスを統一するもので、本部での委員会において申し合わせた。支部における投票の結果、12作品中8作品が現地審査対象作品に選出された。その後、1作品に対して最低でも2名が現地審査を行うことを前提に、各委員の現地審査作品の分担を決めた。

第2回目の支部選考部会では、各委員の現地審査の報告を受け作品の評価を行った。各作品それぞれに対して様々な視点から議論を行いながら、最終的には投票によって、支部推薦作品5作品を選定した。投票数が大きく割れることもなく、投票の数によって絞り込むことができた。その後、Aランク該当2作品を投票数が多い順に選考した。残りの3作品はBランク作品と決定し

た。

昨年度は、支部推薦作品が全て掲載作品になり、今年度も推薦 5 作品中 4 作品が掲載作品に決まった。北海道の建築作品の質のレベルが高いことが再確認できた。今後もさらに良い作品が応募されることを期待したい。

審査員：主査：米田 浩志君
委員：石田 純枝君、植田 暁君、遠藤謙一良君、神田 憲治君、
菊池 規雄君 島田 友典君、藤島 喬君、本井 和彦君

(2) 作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 12 点

支部選考通過作品数 5 点 (本部採用 4 点)

作品選集掲載作品

- ・黒松内中学校エコ改修 (校舎棟)
加藤 誠君：(株)アトリエブク
金箱 温春君：金箱構造設計事務所
鈴木 大隆君：北海道立北方建築総合研究所
- ・K B
豊嶋 守君：(株)画工房
徐 光君：J S D
- ・雁木のある家
照井 康穂君：照井康穂建築設計事務所
- ・雪庭を囲むオフィス
鈴木 理君：(株)鈴木理アトリエ

9 . 3 建築文化週間

日本建築学会北海道支部支部創立 60 周年記念事業 建築文化週間 2008

歴史的建造物から夕張の歴史と未来を考える

財政破綻をした夕張市役所は、文化行政に市の予算を割くことが全く許されない状態である。このような時にこそ、日本建築学会が地域の人々に自分たちの町の良さを再認識してもらうための積極的な働きかけをすべきである。そのため夕張市民ならびに夕張市を応援したいとする人々が夕張市に集い、講演会によって北海道全体の産炭地域の歴史を学び、その上で歴史的建築物の見学会を実施する。

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：10月4日(土)10:00~16:00 (雨天決行)

場 所：北海道夕張市

プログラム：

講演会：10:00~12:00

会 場：夕張市民会館 2 階

講 師：角 幸博君 (北海道大学)

駒木 定正君 (北海道職業能力開発大学校)

見学会：13:00~16:00

見学先：鹿ノ谷倶楽部ならびに滝ノ上水力発電所

参加対象：夕張市民ならびに夕張市を応援したいとする人々

参加数：講演会 73 名

見学会 61 名

みんなで始める地震防災対策

主催：日本建築学会北海道支部、日本建築学会災害委員会

共催：中標津町、北海道立北方建築総合研究所

後援：北海道

日時：10月4日(土) 9:00~13:00

会場：中標津町総合文化会館

プログラム：

- 1.地震と建物の耐震性の話
- 2.住宅の耐震診断の話
- 3.室内安全対策の話
- 4.耐震診断、室内診断の体験
- 5.避難食づくり

講師：大学、行政職員ほか

参加対象：会員、中標津町民(親子)、行政職員

参加数：39名

テーマ：第33回北海道建築賞(2008年度)授賞式及び記念講演会

第33回北海道建築賞(2008年度)を受賞された方々に、受賞作品を語っていただきました。

主催：日本建築学会北海道支部

日時：2008.10.31(金)17:00~20:30

講師：加藤 誠君(第33回北海道建築賞)「黒松内中学校エコ改修」の設計

会場：北海道大学遠友学舎(札幌市北区北18条西7丁目)

参加者：約50名

9.4 支部創立60周年記念事業

北海道支部創立60周年であった2008年度は、60周年を記念した事業として次のことを開催した。なお、支部の周年記念事業としては75周年を大規模に開催する予定になっている。

1) 特別講演会「空間と構造 - 私にとっての構造デザイン」

- ・支部研究発表会の特別企画として齋藤会長の講演を開催した。
- ・日時：2008年6月28日(土)15:15~17:15
- ・会場：北海道工業大学 合同講義室
- ・参加者：約200名
- ・講演の概要は、支部ホームページ内に60周年記念事業ページを作成し、特別講演会として掲載した。

2) 建築文化週間の各行事

- ・建築文化週間に開催された各行事を60周年記念として開催した。
(実施概要は、9.3 建築文化週間の項を参照のこと)

3) 支部設立後51~60年の支部活動に記録文書作成

- ・50周年後10年間における支部活動を前例に倣って文書化した。

4) シンポジウム「小樽運河と石造倉庫群の保存運動から何を受け継ぐ~地域に生き、地域を守る... 峯山富美氏が伝えること~」

- ・日本建築学会文化賞受賞を記念した峯山富美氏のシンポジウムを開催した。
- ・日時：2008年11月7日(金)15:00~19:00
- ・会場：小樽市民センターマリンホール
- ・講師：堀川 三郎君(法政大学) 峯山 富美君(元小樽運河を守る会)
小林 英嗣君(北海道大学) 篠原 修君(政策研究大学)

- 西村 幸夫君（東京大学）山口 保君（小樽市議会議員）山本 真也君（函館市）
- ・共催：社団法人日本都市計画学会北海道支部、社団法人日本建築学会都市計画本委員会
小樽再生フォーラム、小樽市
 - ・参加者：約 270 名

10．建築関連団体との活動

10.1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名、開催数：1回）

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、

AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画

大学院インターンシップ対応

両団体のイベント紹介と参加要請

である。AIJ-JIA ジョイントセミナーについては、2008年6月24日に「環境工学と環境建築—サバティカルデザインを支える断面計画とは」講師：繪内正道君(北海道大学)を実施した。

10.2 北海道建築設計会議（幹事会 9回）

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、大澤一彦と加藤誠の2名を参加させた。幹事会においては、新しい建築確認制度等について情報交換や意見交換を行った。

11 . 共催・後援

期 日	名 称	会 場	主 催
2008.6.20	「平成 20 年度国土交通省先端技術フォーラム」	札幌ドーム西棟会議室	国土交通省
2008.8.19 (応募締切)	第 32 回北の住まい住宅設計コンペ		(社) 北海道建築設計事務所協会
2008.8.25 ~ 27	第 2 回日本・中国・韓国国際シンポジウムー長寿命のためのコンクリートの性能向上 2008ー	室蘭工業大学	室蘭工業大学
2008.9.3	(社)日本都市計画学会第 1 回北海道支部大会(キックオフイベント)	北海道大学	(社)日本都市計画学会北海道支部
2008.10.3	「平成 20 年度地震防災シンポジウム」	釧路全日空ホテル	北海道
2008.10.3	札幌建築セミナー「A・レーモンドは何を残したか」	かでの 2.7	新建築家技術者集団北海道支部
2008.10.14	「JCI 北海道支部からの出前講座 大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換～」	ホテル札幌ガーデンパレス	(社)日本コンクリート工学協会北海道支部
2008.10.25	「第 37 回サイエンス・カフェ札幌」『もっと断熱、冬のために夏のために』～北国から発信する住宅の作り方～	Sapporo55	北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット
2008.10.31	「凍害と耐久性設計研究委員会活動報告会・コンクリートの凍結融解抵抗性の評価方法委員会成果の解説」	(独)土木研究所寒地土木研究所	(社)日本コンクリート工学協会北海道支部
2008.11.6	「成熟社会にふさわしい地域運営の手法～住まいの手の力で住み続けられる地域に～」	江別市大麻出張所	(独)建築研究所
2008.11.14	「歴史的建造物の動的保存と環境的アプローチ」	北海道大学総合博物館	北海道大学歴史的建造物再生研究会
2008.12.2	各種鉄筋継手の工事標準仕様書の基づく監・管理のための技術講習会(第 2 回) 「鉄筋継手の品質確保のための管理と検査」	札幌市教育文化会館	(社)日本継手協会北海道支部
2008.12.19	「地区講演会(札幌) 住まいの環境デザイン・環境エンジニアリングの可能性」	札幌エルプラザ	(社)空気調和・衛生工学会
2009.2.18	「第 19 回旭川建築作品発表会」	「サイパル」旭川市科学館	旭川まちなみデザイン推進委員会
2009.3.28	「すべての建築士のための総合研修」	かでの 2.7 旭川市建設業会館 釧路市観光国際交流センター	(社)北海道建築士会

2008 年度財産目録及び収支決算報告

2008 年度 財産目録

(単位：円)

資産の部					資金および負債の部				
摘要		前年度末	本年度末	比較	摘要		前年度末	本年度末	比較
基本財産					資	支部基金	3,110,000	3,110,000	0
						学術振興基金	3,800,000	3,600,000	-200,000
						災害調査研究基金	2,200,000	2,200,000	0
						退職金積立金	420,000	480,000	60,000
	計	0	0	0					
運用財産	現金	191,162	192,504	1,342	金				
	預金	699,993	1,257,103	557,110					
	普通預金	699,993	1,257,103	557,110					
	未収金	0	0	0					
	仮払金	745,502	749,056	3,554					
	計	1,636,657	2,198,663	562,006		計	9,530,000	9,390,000	-140,000
引当財産	基金引当預金	3,110,000	3,110,000	0	負	未払金	0	0	0
	定期預金	3,110,000	3,110,000	0		仮受金	607,460	589,225	-18,235
	学術振興基金引当預金	3,800,000	3,600,000	-200,000					
	定期預金	3,800,000	3,600,000	-200,000					
	災害調査基金引当預金	2,200,000	2,200,000	0					
	定期預金	2,200,000	2,200,000	0		計	607,460	589,225	-18,235
	職員退職引当預金	420,000	480,000	60,000	繰	前期繰越金	0	0	0
	定期預金	420,000	480,000	60,000		当期過不足金	1,029,197	1,609,438	580,241
	計	9,530,000	9,390,000	-140,000		計	1,029,197	1,609,438	580,241
	合計	11,166,657	11,588,663	422,006	合計	11,166,657	11,588,663	422,006	

2008 年度 収支決算書

(単位：円)

収入の部				支出の部					
摘要	予算額	決算額	増減	摘要	予算額	決算額	増減		
交付金	支部費	1,395,000	1,526,000	131,000	事業費	調査研究事業費	640,000	593,431	-46,569
	経営助成費	2,190,000	2,160,000	-30,000		表彰関係費	730,000	622,622	-107,378
	事業交付金	1,040,000	1,048,000	8,000		設計競技費	30,000	13,735	-16,265
	支部事務所費	1,858,000	1,858,000	0		卒業設計展示費	30,000	33,350	3,350
	支部事務費	300,000	300,000	0		教育文化事業費	300,000	283,500	-16,500
	計	6,783,000	6,892,000	109,000		シボシム等経費	2,400,000	2,272,319	-127,681
副次収入	シボシム等収入	2,400,000	2,494,840	94,840	特別事業費	委託調査研究費	0	0	0
	調査研究受託収入	0	0	0		計	4,130,000	3,818,957	-311,043
	雑収入	550,000	514,801	-35,199	会議費	特別企画事業費	290,000	99,351	-190,649
	収入利息	10,000	34,918	24,918		計	290,000	99,351	-190,649
	計	2,960,000	3,044,559	84,559		総会費	200,000	191,290	-8,710
	前期繰越金	1,029,197	1,029,197	0	役員会費	80,000	42,280	-37,720	
基金取崩金	290,000	200,000	-90,000	運営費	10,000	19,400	9,400		
資産収入				事務費	計	290,000	252,970	-37,030	
					人件費	2,110,000	2,145,819	35,819	
					通信費	200,000	152,233	-47,767	
					消耗品費	90,000	59,009	-30,991	
					印刷費	60,000	52,466	-7,534	
					雑費	450,000	488,628	38,628	
事務所費	2,653,000	2,486,885	-166,115						
基金積立金	0	0	0						
予備金	789,197	0	-789,197						
小計	11,062,197	11,165,756	103,559	小計	11,062,197	9,556,318	-1,505,879		
資産支出									
合計	11,062,197	11,165,756	103,559	合計	11,062,197	9,556,318	-1,505,879		
収支差額							1,609,438	820,241	

監査報告

2008 年度における社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2009 年 4 月 28 日

支部監事 _____

支部監事 _____

2009 年度事業計画方針案

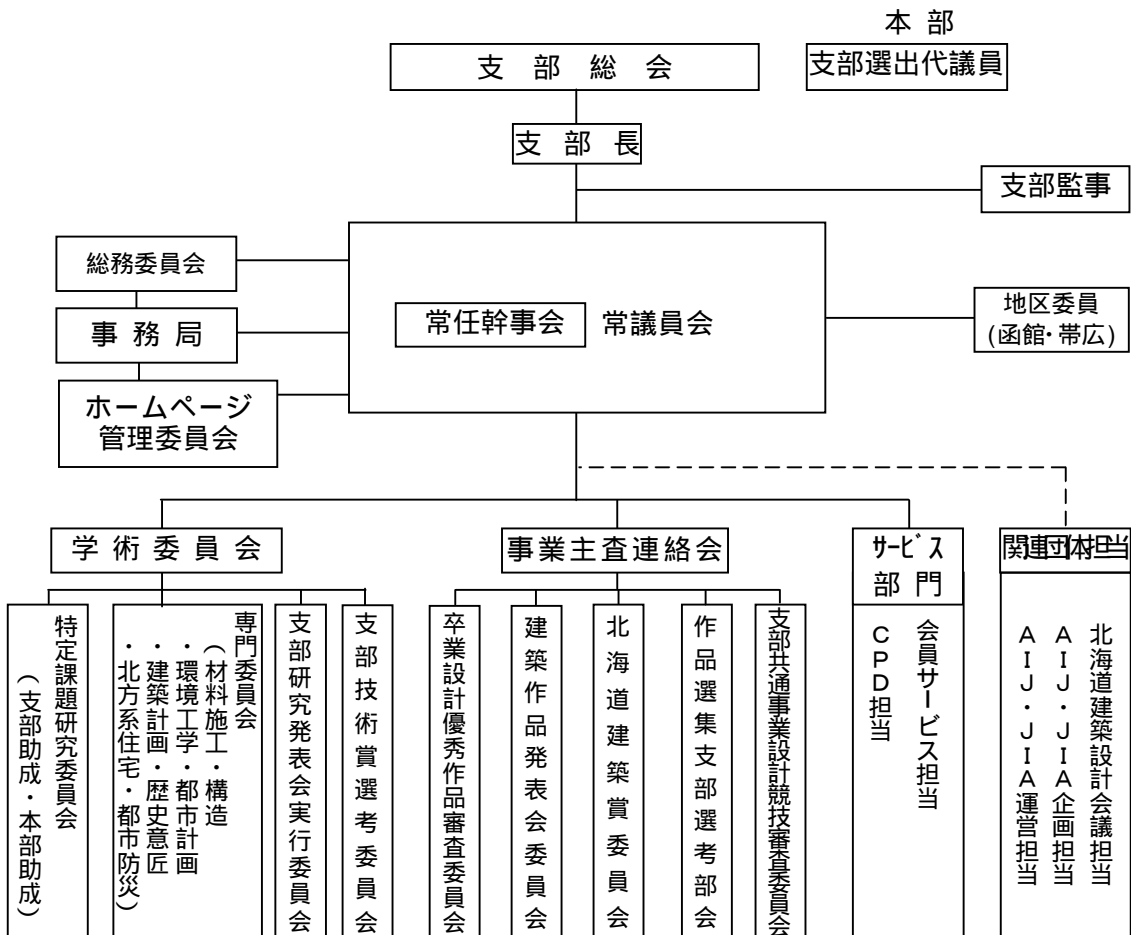
1. 活動方針

学会本部の法人改革に伴い、支部会計、支部規定などの大幅な改革が予定されている。基本的には従来の各支部の活動実績を是認する形で、本部で整合性を図ってくれると思われる。このようなことを考えると 2009 年度は将来への布石のためにも更なる活発な活動が期待される。

支部活動の中でも最も重要な各専門委員会の活動を活発にすること及び特定課題研究の活性化をはかる必要がある。支部技術賞は創設して 3 年目を迎えたが、更に応募しやすくするため規定上の細部を現在改定中である。

本部では一昨年の大会から「建築デザイン発表会」を開催して建築デザイン分野に発表のしやすい機会を提供し発表数の増加に寄与した。支部でもなんらかの方策を検討する必要がある。また、建築士法の改正に伴い大学院教育と設計事務所及び建設業との連携が至る所で必要となってきた。北海道建築設計会議および AIJ-JIA 合同委員会へ期待するところが大きい。

2. 2009 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2008.6.1-2010.5.31)

星野 政幸君 北海道工業大学教授

新任常議員(2009.6.1-2011.5.31)

大柳 佳紀君 北海道建設部住宅局建築指導課主幹
谷口 尚弘君 北海道工業大学准教授
那須 聖君 札幌市立大学講師
原田 慎一君 清水建設(株)北海道支店設計部設計部長
深瀬 孝之君 伊藤組土建(株)建築部技術課課長
松村 博文君 北海道立北方建築総合研究所居住科学部都市生活科科長
森 傑君 北海道大学准教授

(印 常任幹事)

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2009年4月6日)により決定した。
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(印 委員長)

菊地 優君 小椋 伸幸君 小澤 丈夫君 加藤 誠君 佐伯 健一君

留任常議員(2008.6.1-2010.5.31)

岩田 徳夫君 岩田地崎建設(株)常務執行役員
小椋 伸幸君 大成建設(株)札幌支店建築部技術室長兼安全・環境推進室長
小澤 丈夫君 北海道大学大学院工学研究科准教授
加藤 誠君 (株)アトリエブク常務取締役
川村 敏彦君 (株)ドーコン建築都市部主幹
佐伯 健一君 北海道立札幌工業高等学校教諭
濱 幸雄君 室蘭工業大学建設システム工学科准教授

(印 常任幹事)

新任代議員(2009.4.1-2011.3.31)

絵内 正道君 北海道大学名誉教授
佐藤 孝君 北海道工業大学教授
平尾 稔幸君 平尾建築事務所代表

(2009年3月の本部選挙の結果、上記3名が選出された)

留任代議員(2008.4.1-2010.3.31)

串山 繁君 北海学園大学教授
緑川 光正君 北海道大学教授
向山 松秀君 石本建築事務所札幌支所所長

新任支部監事(2009.6.1-2011.5.31)

飯田 雅史君 北海道工業大学教授
(2009年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事(2008.6.1-2010.5.31)

武田 寛君 北海道工業大学教授

地区委員(2009.6.1-2010.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也君 函館市都市建設部長

3. 支部運営の諸会合の開催

総会
期日 2009年5月22日(金)
会場 北海道建設会館

常議員会 (複数回)

常任幹事会 (複数回)

選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4.1 学術委員会 (主査:角 幸博君 委員数 15名、委員会開催予定数4回)

活動方針

- ・ 学術委員会主査は、本部学術推進委員会の地域委員として年2回ほど本部委員会に出席し、本部委員会および拡大幹事会の情報を各専門委員会に報告する。
- ・ 当学術委員会は各専門委員会及び特定課題研究委員会から、調査研究の企画・計画・活動報告を受ける。
- ・ 支部研究発表実行委員会の企画の審議と承認
- ・ 特定課題研究、支部助成研究、建築文化週間の募集と選定を行う。
- ・ 支部技術賞の審査を行う。
- ・ 支部長諮問事項についての検討を行う。
- ・ 各専門委員会の活動の横断的な連絡をする。

活動計画

- 第1回目:本部学術推進委員会報告。各専門委員会及び特定課題研究委員会活動計画。支部研究発表実行委員会の予定。建築文化週間の実施計画。
- 第2回目:本部学術推進委員会報告。各専門委員会活動報告。支部研究発表会次年度開催校の決定及び募集要項その他の決定。次年度の建築文化週間及び特定課題研究の募集。建築学会本部大賞候補の募集
- 第3回目:本部学術推進委員会報告。各専門委員会活動報告。次年度の建築文化週間及び特定課題研究の選考。支部技術賞の審査。
- 第4回目:本部学術推進委員会報告。支部研究発表会特別企画の決定。特定課題研究及び建築文化週間の結果報告。

4.2 専門委員会

材料施工専門委員会 (主査:桂 修君 委員数 22名、委員会開催予定数6回)
建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施行現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。
具体的な活動予定は以下の通りである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会(話題提供)
- ・ 見学会の開催
- ・ 道内巡回講演会
- ・ 寒中コンクリート小委員会、寒中指針改定WGに協力し、「寒中コンクリート施工指針・同解説」の検討を行う。

- ・ 寒中施工に関する講演会開催（道内3カ所程度を予定）

構造専門委員会（主査：田沼 吉伸君 委員数 21名 + アドバイザー - 1名 委員会開催予定数 2回）
 これまでに引き続き、委員会を通して道内における構造関係の研究者・技術者との情報交換を行うと共に、各種行事を企画して地域の会員・市民への啓蒙活動を行う。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 委員会の開催：2回行う（6月、12月）必要に応じて通信会議を開く。
- 2) 講演会・講習会：JSCA 北海道支部および他の建築関連諸団体と協力して実施する。
- 3) 施工現場見学会：道内で現在施工中の建築構造物の見学会を行う。
- 4) 工業高校巡回講演会
 講師：南出孝一君 演題：「建築柔剛論争」
- 5) 勉強会：委員会開催時に、幅広い分野を対象に適宜勉強会を行う。

環境工学専門委員会（主査：羽山 広文君 委員数 28名 委員会開催予定数 4回）

本委員会は以下の活動を計画している。

- 1) 第4回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs09 を開催する。
- 2) 高齢化社会に対応する生活環境整備の課題検討及び取り組みを実施するに当たり、特定課題研究「住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握」の実施をサポートする。
- 3) (社) 空気調和・衛生工学会および(社) 北海道建築技術協会、日本マンション学会などと連携し、環境関連の講演・シンポジウムへの後援・協賛等を予定している。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 16名、委員会開催予定数 4~5回）
 （活動方針）昨年度に引き続き「超高齢化社会の積雪寒冷地における居住環境整備の課題」を2009年度の活動テーマに研究協議を図る。「安全・安心」で「快適」を標榜する立場から、居住施設とその周辺の住環境に連続する行動空間を確保するための計画的な方法を考究していく。

（主な活動事業）上記課題に対し、2回~3回程度勉強会を予定している。なお、2008年度当初、課題に関する研究情報を集約するためのWebアプリケーションをダイナミックDNSサービス下のサーバに構築したが、これの活用・利用法に関する普及用のメディアが必要と分かった。この普及用のメディアをLive DVDに集約する開発事業を展開する予定である。開発の完了予定を2009年度上半期に予定している。

都市計画専門委員会（主査：小林 英嗣君 委員数 13名、委員会開催予定数 3回）

1. 活動計画

都市計画委員会では、都市計画・まちづくりに関わる人材の育成を重点課題とし、それに繋がる活動をさまざまに展開する。これに加え、今後の都市に求められる低炭素型の都市システムや戦略的まちづくり手法などについても議論を深める。

具体的には、都市計画・まちづくり実務者（行政、民間）と学生・若手社会人、教育研究者の相互交流の場を企画予定しているほか、臨床事例として相応しい自治体を選定し、前述の相互交流を含む現場での（仮）夜なべ談義などの企画実施、また、公開のまちづくり研究会 およびシンポジウムの開催を予定している。予定の内容について下記に整理するものの他、まちづくり研究会（メンバー+ ）を2回程度予定している。

2. 活動スケジュール（予定）

開催予定月とタイトル	概要
2009.05 第1回委員会	今年度の取り組み等について、および下記企画の調整など
2009.06 プロと話そう2009 vol.1	2008年10月に実施した都市計画・まちづくり実務者（行政、民間）と学生・若手社会人、教育研究者の相互交流の場企画の継続。 （場所：未定）

2009.07 第2回委員会	まちづくりの先進事例等について、および下記企画の調整など
2009.09 まちづくりルックイン + (仮)座・論	まちづくりの実践例の見学会ののち、住民・まちづくり実践者、実務者と若手プランナー、教育研究者・学生との交流を実施。 (場所：未定)
2009.10 第3回委員会	戦略的まちづくり等について、および下記企画の調整など
2009.12 プロと話そう2009 vol.2	2008年10月に実施した都市計画・まちづくり実務者(行政、民間)と学生・若手社会人、教育研究者の相互交流の場企画の継続。 (場所：未定)
2010.02 まちづくりシンポジウム	「タイトル、詳細等未定」 (場所：札幌)

歴史意匠専門委員会 (主査：中渡 憲彦君 委員数 16名、委員会開催予定数 5回)

道内各地の歴史的建造物の現状を把握しながら、保存・活用に関する意見を各委員間で共有し、必要に応じて当専門委員会として社会に発言する体制を用意する。歴史的建造物の保存要望書を提出する必要が生じた場合には、当該建造物に関する見解書の作成に協力する。

一方、当学会本部から「特色ある支部活動」の助成を受け、研究期間に1年間をかけて「北海道における建築歴史学の研究史」を共同研究としてまとめる。

上記とは別に、委員会内部の活性化を図る目的から、委員相互の研究交流や情報交換を毎回の専門委員会の中で実施する。その結果、準備が整えば一般参加も可能な公開委員会の形に広げていくことも検討する。

北方系住宅専門委員会 (主査：鈴木 大隆君 委員数 16名、委員会開催予定数 複数回)

環境や高齢化問題を背景とした持続循環型社会における今後の住まいづくりには、これまでの技術の集積からなる住宅づくりや居住者の一面的視点に立ったものづくりとは異なる新たなコンセプトの構築が必要である。

北方系住宅専門委員会では、

- ・住宅分野で研究活動を精力的に進めている研究者
- ・地域をベースに活動している建築家
- ・積雪寒冷地に適する住宅を追求している生産者
- ・地域をベースに事業展開している建材メーカー

などを核としながら委員会体制の再構築を進め、年数回の委員会活動により昨年度に引き続き地域・ひとネットと新たな住宅ビジョンの構築に向けた検討とシンポジウム等による社会活動を行う。

都市防災専門委員会 (主査：草刈 敏夫君 委員数 19名、委員会開催予定数 2回、通信委員会複数回)

本委員会の基本方針は、多領域、多地域に渡る防災関係機関(関係者)の連携を図ることにある。このため、委員会HPの運営及び防災ニュースの発行並びに災害委員会HPへの協力等を行い、支部会員及び本部災害委員会との連携関係の構築を図る。自然災害調査については、関係機関との連携体制の強化を図る。他学協会との連携については、強震動評価、風災害等に関する調査研究会開催を目指す。地域との連携活動については、地震防災対策をテーマにした建築文化週間事業を行う。

4.3 特定課題研究委員会

(2009年度より)

冬季の津波避難対策研究委員会(主査:南 慎一君 委員数:5名、委員会開催予定数複数回)

研究目的

北海道沿岸では、近年の2003年十勝沖地震を初め、甚大な被害をもたらした1993年北海道南西沖地震のほか1960年チリ地震、1952年十勝沖地震など多くの津波による災害が発生している。また、2006年11月及び2007年1月の北太平洋を震源とする地震では、オホーツク海沿岸に津波警報、太平洋沿岸に津波注意報が発令され、住民避難が行われた。2007年1月の津波警報による避難の際には、積雪による通行障害、要援護者の避難誘導、避難所の開設、避難所の防寒対策など多くの問題点が指摘されている。このため沿岸域を有する自治体では、津波避難対策が急務となっているが、津波浸水危険性の把握に着手し始めたところが多く、津波避難所の整備は進んでいないのが現状である。

こうしたことから、自治体の津波避難対策の推進に資するために、津波避難対策の実態把握及び実災害時の避難所の使用実態把握を行い、冬季の津波避難対策のあり方について検討を行う。

研究方法

1. 津波避難対策の実態把握
市町村の避難所の指定方法、避難所機能等の実態調査分析
2. 冬季の津波避難所の使用実態把握
冬季の災害による避難所の実態調査分析
3. 冬季の津波避難対策の課題整理
避難所の機能、避難所の管理運営のあり方についての検討

4.4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2009年度より)

住環境影響の実態把握委員会(主査:羽山 広文君 委員数:6名、委員会開催予定数4回)

住宅における死亡は全体の約12%を占め、その数は冬期に顕著となっている。特に浴室での入浴死は年間1万人を越すと推定され交通事故死をも上回るが、その対策は遅れている。住居内の温熱環境の確保は居住者の健康を考える上で重要であるが、住居内の温熱環境の基準は示されていない。本研究では、室内の温熱環境が身体へ与える影響について、夕張医療センターの介護老人保健施設利用者などを対象に、日常生活における室内の温熱環境と生理データを同時に計測し、住居内の温熱環境が身体へ与える影響を把握し、高齢者を対象とした住居内の温熱環境の基準策定の基礎データを得ることを目的とする。

4.5 特色ある支部活動

北海道における建築歴史学の研究史(歴史意匠専門委員会)(主査:中渡 憲彦君 委員数 16名)

本学会北海道支部は優れて特異な歴史学研究の歩みを呈している支部であるが、その建築史研究自体の歴史をふりかえって見ると時代としては必ずしも古くまで遡るものではない。研究活動が本格化する草創期に直接立ち会うことができた研究者が現在も存命である。この機会に当北海道支部歴史意匠専門委員会の研究活動として、正確な研究史をまとめ後世に残し伝えることは、当支部の活性化のみならず本学会全体の存在意義を確認する点においても意義深い作業である。

先輩研究者、現役の研究者、若手の学徒らが集い、あらゆる裏づけを確認しながら正確な歴史的事実を編纂する好期としたい。

5. 支部研究発表会

5.1 支部研究発表会実行委員会（主査：瀬戸口 剛君 実行委員会委員 16名、委員会開催予定回数：5回）

支部研究発表会を企画・運営することを責務として支部研究発表会実行委員会が設置されており、この委員会の主な活動内容を以下に示す。

- 1) 支部研究発表会日程と会場の決定
- 2) 支部発表会の論文原稿種別、発表形式の確認の決定
- 3) 論文執筆要領の作成と原稿募集記事の建築雑誌掲載および原稿募集事業の実施
- 4) 特別企画のテーマ募集事業の実施および特別企画テーマの選定
- 5) 論文原稿の受付・編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成および建築雑誌掲載記事の手配
- 6) 支部研究発表会事業の実施

5.2 支部研究発表会の実施

第 82 回支部研究発表会を下記の予定で行う。発表会にあたって研究報告集 No.82 および CD-ROM 版を作成する。

論文締切り：2009 年 4 月 15 日（水）17：00（電子投稿受付）

日時：2009 年 7 月 4 日（土）

場所：北海学園大学工学部（札幌市中央区南 26 条西 11 丁目 1 - 1）

内容：研究発表会、特別企画、懇親会

6. 表彰

6.1 北海道建築賞

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の 3 つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰および受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

（2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第 34 回北海道建築賞の応募期間：2009 年 4 月 15 日（水）～5 月 15 日（金）
 - 2) 審査期間：5 月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6 月上旬（書類審査）～7・8 月（現地審査）～9 月上旬（最終選考）
 - 3) 結果発表：9 月下旬（常議員会での承認後）
- 北海道建築賞授賞式および受賞記念講演会：10 月 30 日（金）予定

6.2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

（2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2009年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2008年度と同様、2009年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に、各部門、金、銀、銅、各賞を選出する。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6.3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6.4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6.5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に係って、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7.1 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志君 委員3名 実行委員10名 委員会開催数5回（実行委員会3回を含む））

2009年度の目標も引き続き、事業収支の改善である。発表登録費の見直し、作品集コストの検討などを図り、可能性を検討し、実施できる部分より着手することである。建築作品発表会は、北海道支部の特色ある事業という認識に立ち、北海道の建築の質の向上に寄与することが重大な使命であり、建築作品を発表することによる情報発信とそこで行われる議論の蓄積と充実は、他の建築系諸団体にとっても最良のCPDのコンテンツ供給であると認識して、その質を高めることを今年も目指していきたい。

7.2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品の応募時期：8月下旬～9月下旬

作品集原稿締め切り：10月中旬

作品発表会開催時期：12月初旬の中の1日間

作品発表会開催場所：道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、事業主査連絡会担当常議員 予定開催数：複数回）

事業系5委員会の事業進捗状況とその際の問題点等を適宜把握し、意思決定機関である常議員会へ改善提案等を行っていくための役割を今後も果たして行くような活動を行っていく。さらには、各事業が連携しつつ活性化が計れる可能性を検討する。

8.2 総務委員会（委員長：菊地 優君 委員数4名 予定開催数1回）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況がさらに悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに、事務局業務の効率化、会議室の有効利用、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会(2009年度)(予定)

委員長	菊地 優君	北海道大学	(教育機関の常議員経験者)
委員	那須 豊治君	岩田地崎建設	(民間機関の常議員経験者)
〃	福島 明君	北海道	(行政機関の常議員経験者)
〃	岩田 徳夫君	岩田地崎建設	(留任常議員)
〃	未 定		(新任常議員)

8.3 ホームページ管理委員会（主査：谷口 尚弘君 委員数：5名）

当委員会は当支部ホームページの管理を活動の目的としている。5名の委員で構成され、委員会の定例開催は特に設定していないが、掲載内容等について適宜通信により協議することとしている。2009年度は、前年度に引き続き既掲載内容や行事案内等を迅速に更新・掲載し、時宜を得た会員への情報提供を行うとともに、会員外に対しても広く日本建築学会および当支部の活動を宣伝するため、各種委員会の活動状況、行事の案内および活動報告などを適切に掲載し、当ホームページの更なる充実を図る。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9.1 本部主催講習会

2009年度本部主催支部共通事業講習会を開催する。

9.2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9.3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。また、「アーキニアリング・デザイン展」を実施する。

9.4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10.1 2009年度支部共通事業設計競技の実施（主査：川人 洋志君 委員数5名 委員会開催予定数1回）

2009年度設計競技審査委員会の委員には、主査、川人洋志、委員、赤坂真一郎、小西彦仁、那須 聖、山内裕一の5名で行う予定である。

2009年度の課題は「アーバン・フィジックスの構想」と決定され、7月中に支部審査を1回、行う予定である。なお、昨年以上の応募数確保のため、各大学関係者に参加の呼びかけを適切な時期に行いたいと考えている。

10.2 作品選集支部選考部会（主査：植田 暁君 委員数7名 委員会開催予定数2回及び現地審査）

昨年度は、北海道支部の応募総数は12作品であった。本部作品選集委員会において全国応募作品総数から割り出された支部推薦枠は5作品である。本審査の結果、北海道支部の推薦5作品中4作品が作品選集掲載作品に決定した。支部推薦作品の多くが掲載作品に選出されている状況はここ数年続いている。ここから読み取れるのは、北海道の建築作品の質の高さである。このような結果を残していくためにも、より多くの建築作品が応募する環境作りを、新年度の支部委員会でさらに検討すべきであろう。

10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の2件を予定している。

1. 「みんなで始める地震防災対策」 （都市防災専門委員会）
2. 「第34回北海道建築賞授賞式・授賞記念講演会」 （支部主催）

11. 建築関連団体との活動

11.1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：常任7名、委員会開催予定数3回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、合同で行う企画について協議する。ジョイントセミナーについても継続して行うように計画を進める。また、北海道建築設計会議と連携して、関連団体を含めた企画等の活動を積極的に行う。

11.2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

2009 年度収支予算案

(単位:円)

科目名称	予算額	前年度予算額	増減
事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
(1) 特定資産運用収入	(16,000)	(8,000)	(8,000)
特定資産利息収入	16,000	8,000	8,000
(2) 事業収入	(2,400,000)	(2,600,000)	(-200,000)
研究会事業収入	(2,200,000)	(2,400,000)	(-200,000)
研究会事業収入	2,200,000	2,400,000	-200,000
講演会事業収入	0	0	0
受託事業収入	0	0	0
その他の事業収入	200,000	200,000	0
(3) 寄付金収入	(0)	(0)	(0)
基金寄付金収入	0	0	0
(4) 雑収入	(254,000)	(352,000)	(-98,000)
雑収入	(254,000)	(352,000)	(-98,000)
利息収入	4,000	2,000	2,000
その他の雑収入	250,000	350,000	-100,000
(5) 他会計からの繰入金収入	(7,017,000)	(6,783,000)	(234,000)
基本部門からの繰入金収入	(5,159,000)	(4,925,000)	(234,000)
支部費収入	1,409,000	1,395,000	14,000
経営助成費収入	2,160,000	2,190,000	-30,000
事業促進費収入	550,000	300,000	250,000
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0
教育文化事業交付金収入	540,000	540,000	0
支部事務費収入	300,000	300,000	0
会館部門からの繰入金収入	(1,858,000)	(1,858,000)	(0)
支部事務所費収入	1,858,000	1,858,000	0
事業活動収入計	9,687,000	9,743,000	-56,000
2 事業活動支出			
(1) 事業費支出	(4,490,000)	(4,420,000)	(70,000)
研究会事業費支出	(2,250,000)	(2,400,000)	(-150,000)
研究会事業費支出	2,250,000	2,400,000	-150,000
講演会・展示会費支出	(490,000)	(530,000)	(-40,000)
講演会事業費支出	460,000	500,000	-40,000
展示会事業費支出	30,000	30,000	0
調査研究事業費支出	990,000	730,000	260,000
表彰・顕彰事業費支出	(760,000)	(760,000)	(0)
表彰関係費支出	720,000	730,000	-10,000
設計競技費支出	40,000	30,000	10,000
委託事業費支出	0	0	0
(2) 管理費支出	(5,770,000)	(5,793,000)	(-23,000)
会議費支出	(270,000)	(290,000)	(-20,000)
総会費支出	200,000	200,000	0
役員会費支出	60,000	80,000	-20,000
運営費支出	10,000	10,000	0
給与手当支出	1,750,000	1,750,000	0
福利厚生費支出	300,000	300,000	0
退職給付支出	0	0	0
通信費支出	212,000	200,000	12,000
印刷費支出	50,000	60,000	-10,000
消耗品費支出	90,000	90,000	0
電算費支出	0	0	0
雑費支出	445,000	450,000	-5,000
事務所費支出	2,653,000	2,653,000	0
事業活動支出計	10,260,000	10,213,000	47,000
事業活動収支差額	-573,000	-470,000	-103,000

次ページに続く

投資活動収支の部			
1 投資活動収入			
(1) 特定資産取崩収入	(290,000)	(290,000)	(0)
特定資産取崩収入	(290,000)	(290,000)	(0)
学術振興基金取崩収入	290,000	290,000	0
投資活動収入計	290,000	290,000	0
2 投資活動支出			
(1) 特定資産取得支出	(60,000)	(60,000)	(0)
特定資産取得支出	(60,000)	(60,000)	(0)
職員退職引当金取得支出	60,000	60,000	0
投資活動支出計	60,000	60,000	0
投資活動収支差額	230,000	230,000	0
財務活動収支の部			
1 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
予備費支出	202,000	789,197	-587,197
当期収支差額	-545,000	-1,029,197	484,197
前期繰越収支差額	1,000,000	1,029,197	-29,197
次期繰越収支差額	455,000	0	455,000

注) 科目名称は、2009 年度より導入された新公益会計基準に従っており(総務省通達)、昨年度までの科目とは異なる。

基金・積立金内訳

2008年度末(決算)		2009年度末(予算)	
支部基金	3,110,000	支部基金	3,110,000
災害調査研究基金	2,200,000	災害調査研究基金	2,200,000
学術振興基金	3,600,000	学術振興基金	3,310,000
職員退職積立金	480,000	職員退職積立金	540,000

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿
法人正会員

2009年3月末現在

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00547-58	1	戸田建設(株)
00505-34	2	岩倉建設(株)	00553-56	1	(株)巴コ-ポレ-ション
00505-50	2	岩田地崎建設(株)	00557-04	1	日鐵セメント(株)
00512-89	3	(株)大林組	00614-45	1	日本デ-タサ-ビス(株)
00512-97	1	(株)大林組	00555-50	1	西松建設(株)
00515-72	1	(株)岡田設計	00560-51	1	(株)日本設計
00567-92	2	北電興業(株)	00561-82	1	日本防水総業
00517-00	5	鹿島建設(株)	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00611-61	1	曾澤高圧コンクリ-ト(株)	00625-81	1	(株)アトリエ・アク
		技術部	00586-89	1	北農設計センター
00614-38	1	(株)ホ-ム企画センター	00597-74	1	(株)総研設計
		総務部	00565-64	1	(株)フジタ
00523-82	2	(株)熊谷組	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00568-07	1	(株)ドーコン
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)	00618-60	1	北海道建築設計監理
00540-41	5	大成建設(株)			(株)
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00568-15	2	北海道コンクリ-ト
00544-49	2	(株)竹中工務店			工業
00674-76	1	(株)間組 札幌支店建築部	00531-84	1	清水建設(株)
00656-02	1	坂本建設(株)	00538-83	2	(株)田中組
00659-11	1	(株)都市設計研究所	00674-50	1	(株)中原建築設計
00674-84	1	五洋建設(株) 札幌支店			事務所
00549-52	1	東急建設(株) 札幌支店	00684-14	1	(株)三暁プレコン
00701-51	1	(株)INA 新建築研究所			システム
		札幌支店	00685-29	1	(株)北海道不二サッシ
00710-77	1	(株)久米設計札幌支社	00704-45	1	(株)アトリエ・ブंक
00684-22	1	(株)北海道サンキット	00704-09	2	(財)北海道建築指導
00724-63	1	(有)エヌディースタジオ			センター
			00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)
			00721-70	1	(株)土屋ホーム

賛助会員

会員番号	口数	会員社名・団体名
00814-70	3	北海道電力(株)
00810-06	1	道都大学附属図書情報館
00813-49	1	(株)NTT ファシリティ -ズ北海道支店 営業推進部
00815-01	1	北海学園大学附属 図書館
00815-19	1	札幌建築デザイン専門学校
00847-03	1	(株)総合資格



社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>